



伊吹山のイヌワシ

(山頂山小屋・松井純典さん提供)



伊吹山文化資料館



保護された時の幼鳥

(伊吹山文化資料館提供)



幼鳥の剥(はく)製



伊吹山のイヌワシ(伊吹山ネイチャーネットワーク・中井宏行さん提供)

伊吹山のシンボル
イヌワシ

☑生息条件を満たす山
悠々と大空を舞い、森の奥深くまで俯瞰するこの鳥は、伊吹山のシンボリック的存在、ニホンイヌワシです。体重は3〜5kg、翼を広げれば2mにもなりまです。イヌワシは、国の天然記念物。日本列島には、わずか500羽ほどしか生息していま

伊吹山
やまはな便り

10



伊吹山ネイチャーネットワーク事務局長

山下 吉和

森林伐採など環境の変化が著しく、絶滅の危機に

せん。その鳥が生き抜くためには、100〜200km(近江八幡市相当)もの広大な「なわばり」が必要です。さらに、狩りには豊かな森林だけではなく、草原や伐採地など開けた場所も不可欠です。その条件を満たしている伊吹山には、もう何十年も前からイヌワシの番(つが)いが生息しています。

☑一昨年の悲劇

実は一昨年、伊吹山でこんな悲劇がありました。15年ぶりに巣立った幼鳥が死んだのです。イヌワシは、通常2つの卵を産みますが、「兄弟殺し」と呼ばれる行為により、育つのは最初の1羽のみです。確実に子孫を残すためのなか、詳細は不明です。そうして育った幼鳥が、草々と空を舞う姿が記録されています。しかし、7月、ケガを負っているところを発見、保護さ

れましたが、再び舞うことはありませんでした。

☑大規模な開発で

失われていく日本の森で、1羽の雛が生き抜くことはどれほど至難なことか。調査によると40年前に55%あった繁殖率が、8年前には20%に減じています。原因は餌不足です。多くの生息地では、近年の大規模な開発、森林伐採など環境の変化が著しく、今や絶滅の危機に瀕しています。イヌワシを守ることは、豊かな森と生態系のバランスとれた環境を再生させることに繋がります。

伊吹山文化資料館には、亡くなった幼鳥の剥(はく)製が展示してあります。幼鳥といえども、その容姿からは、風格と威厳すら感じます。ぜひ、お立ち寄り下さい。そして、ご対面下さい。